



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 8 月 9 日(土)

発行 館長 加 藤 智 一

弁財天



霞城公園の北東お堀端に弁財天が祀られています。伊達文書によると、文禄二年（1593 年）に、普請施行法の記載があり、二の丸の大改築の際に弁財天が掘り上げられ、出羽三山信仰の参拝街道筋のこの地に安置されたと伝えられています。弁財天は、元々インドのヒンドゥー

教の女神「サラスヴァティー」に由来します。仏教に取り入れられて、「天部」の一尊として信仰されるようになり、寺院で祀られるのが本来の形であるはずですが、ここでは明らかに神社になっています。なぜ？そう言えば神奈川の江の島神社にも弁財天が祀られていたな？そのへんも含めて、弁財天にまつわる蘊蓄を語らせてください。

(1) 弁財天の起源と神格の変遷

弁財天は、元々インドのヒンドゥー教における女神「サラスヴァティー」を起源としています。サラスヴァティーは「知恵」「学問」「音楽」「言語」を司る女神であり、川の神でもありました。彼女の名前は「流れるもの」を意味し、インドではサラスヴァティー川と結びついて信仰されていました。この女神が仏教に取り入れられ、中国を経て日本に伝来する過程で、仏教の守護神「弁才天」として再解釈されました。日本では「才」が「財」に転じ、「弁財天」と表記されるようになり、財運や商売繁盛の神としても信仰されるようになります。

(2) 「水」との象徴的な結びつき

弁財天の神格には、音楽や言語といった抽象的な要素だけでなく、「水」との深い関係が見られます。これは彼女の起源であるサラスヴァティーが川の女神であることに由来します。水は古来より「生命の源」「浄化」「豊穡」「流動性」の象徴であり、神聖な存在として扱われてきました。日本においても、水は神道的な浄化の力を持つとされ、神社の手水舎や禊（みそぎ）の儀式などに見られるように、神聖な空間を清める役割を果たします。弁財天が水辺に祀

られるのは、こうした水の霊性と彼女の神格が自然に融合した結果といえるでしょう。

(3) 池・沼と龍神信仰の融合

さらに興味深いのは、弁財天が祀られる池や沼が、しばしば「龍神」や「蛇神」とも関係している点です。日本では水辺に棲む霊的存在として龍や蛇が信仰されてきました。これらは水の守護者であり、雨をもたらす存在として農耕社会において重要な神格でした。また、弁財天はしばしば「八臂（はっぴ）の弁財天」として、武器を持った姿で描かれますが、これは水の守護神としての側面を強調したものです。また、弁財天が白蛇を眷属とすることもあり、蛇神信仰との融合が見られます。池や沼は、こうした蛇神・龍神の棲み処とされ、弁財天がそこに祀られることで、豊穡・財運・水の恵みを祈願する場となったようです。日本各地の水辺に弁財天が祀られているのは、そのような事情があったからなのでしょうね。また、弁財天が水辺に祀られることには、心理的な意味もあります。水辺は静寂と癒しの空間であり、瞑想や祈りに適した場所です。弁財天の神格には「音楽」「芸術」「言語」といった精神的な豊かさが含まれており、水辺の静けさはそうした内面的な世界と響き合うのだと思います。また、水は「流れ」を象徴し、停滞を打破する力を持つとされます。弁財天に祈ることで、人生の流れを良くし、運気を呼び込むという信仰が生まれたのでしょう。

(4) なぜ神社にも祀られるようになったのか

平安時代以降、日本では神道と仏教が融合し、仏が神の姿で現れるという「本地垂迹説」が広まりました。この考えにより、弁財天は神道の女神「市杵嶋姫命（いちきしまひめのみこと）」と同一視され、神社でも祀られるようになりました。しかし、明治時代初期、新政府が神道を国教化するために「神仏分離令」を發布。これにより、寺院と神社の区別が厳格化されました。その際、神社に祀られていた仏教由来の神々は、神道の神に置き換えられることがあり、弁財天も「市杵嶋姫命」として神社に残された例が多くあるという訳です。



弁財天